

そばの安定生産を実現しよう！

～目標単収 60 kg以上！～

ここがポイント！！

- 1 排水対策の徹底（明渠、暗渠で排水性向上）
- 2 砕土率の確保（2 cm 以下の土塊割合 70%以上）
- 3 適期播種で倒伏防止（8 月上中旬の播種）

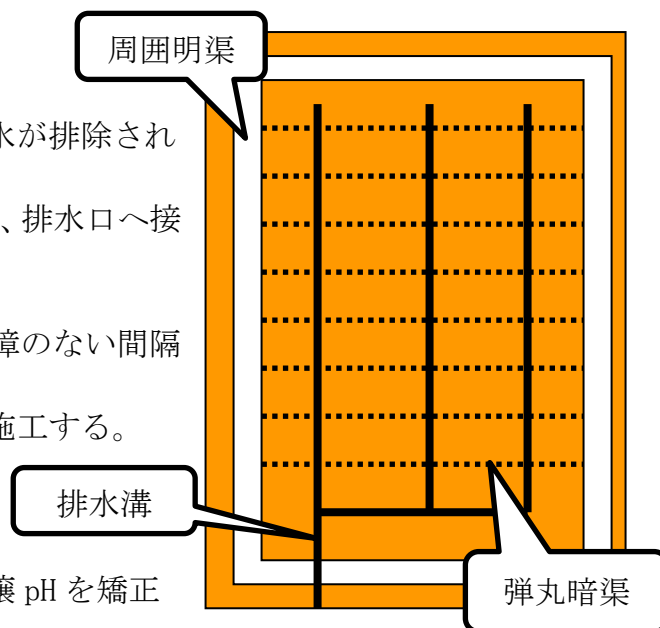
1 排水対策・施肥設計

(1) ほ場の選定

- ア そばは湿害に極めて弱い作物のため、排水の良いほ場を選ぶ。
- イ ほ場を団地化して、周囲からの水の侵入を防ぐ。
- ウ 耕起前に雑草が多発生している場合は、そばの耕起前に農薬登録のある非選択性除草剤を散布するなどの対策を行う。

(2) 排水対策

- 降雨があった場合に、半日以内に地表水が排除されることを想定し、排水対策を行う。
- ア 周囲明渠は、深さ 25～30 cmを確保して、排水口へ接続する。
- イ ほ場内に数本の排水溝を掘る。
溝の間隔は 4～6 mで、ロータリ耕に支障のない間隔とする。
- ウ 弾丸暗渠は、本暗渠と交差するように施工する。



(3) 施肥

- ア 播種1週間前に石灰質肥料の施用で土壌 pH を矯正する(目標 6.0～6.5)。
(施用量のめやす:「消石灰」60～80kg/10a または「炭カル」80～100kg/10a)
- イ 基肥は 10a 当たり成分量で窒素1～2kgとする。
初作ほ場で倒伏が心配される場合は、施肥量を少なくする。
- ウ リン酸、カリは稔実を高める効果が期待できるので、無窒素の場合でも施用する。
- エ 施用例として、「そば用 500 号 (5-20-20)」を用いる場合は、20～40kg/10a をめやすとする。

表 1 施肥量のめやす

肥料		施用量 (10 a 当たり)
酸度 矯正	消石灰	60～80 kg
	窒素	1 ～ 3 kg
基肥	リン酸	4 ～ 8 kg
	カリ	5 ～ 10 kg

2 耕うん・播種

(1) 適切な耕深と砕土率の確保

安定した苗立ちには、作土表層を細くすることポイントとなる。

ア 排水対策を早め実施し、ほ場を十分に乾かす。

イ 作土の深さは 15cm、砕土率（2cm 以下の土塊重量割合）70%以上を目標とする。

ウ トラクターは低速走行、ロータリは高回転で、丁寧に耕うんする。

エ アップカットロータリーやドライブハローを使うと表層の土が細くなりやすい。

※複数回耕うんする場合、1回目が粗いと2回目以降は細かくなりにくいいため、1回目を丁寧にを行う。



左：砕土率 15%（土塊が大きくゴロゴロしている）

右：砕土率 70%（土塊が細かくサラサラしている）

(2) 播種

ア 播種期は8月上旬を基本とし、早まきする場合は播種量を少なめとする。

表2 品種、標高別の播種期

品 種 名	平坦地（標高200m以下）	中山間地（200～400m）
とよむすめ	8月上旬	7月下旬～8月上旬
信濃1号	8月上旬～中旬	7月下旬～8月上旬

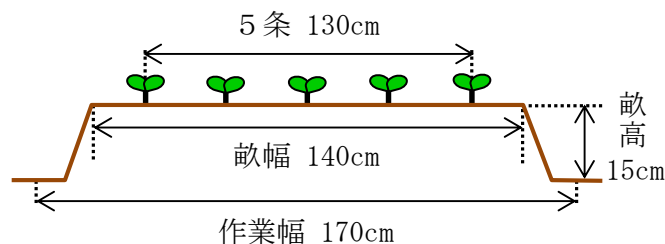
イ 耕うん・砕土・整地・播種は同じ日に行う。

ウ 苗立ち数は 100 本／㎡を目標に、播種方法に応じた種子量を用意する。

そばの千粒重は 33 g 程度なので、5 kg 播種の場合 150 粒／㎡程度に相当する。

表3 播種方式と種子量

方式	方法	播種量	注意事項
条播	ドリルまき	5 kg	・ 条間 30～50 cm 程度、播種深さ 2～3 cm。 ・ 土壌が加湿の場合は、発芽不良となるので、散播に切り替える。
散播	ブロードキャスタ 手まきなど	7～8 kg	・ 均一に播種した後、ロータリで浅く攪拌する。



耕うん同時畝立て播種の例

（令和8年7月）